
悪夢の後～救いの手～

菜花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪夢の後～救いの手～

【著者名】

N4050D

【作者名】

菜花

【あらすじ】

悪夢でうなされたコナンは夜中に服部に電話をかけ……。服部とコナンの友情物語少しコナンの性格と異なっているかもしません。正確には弱気になつてゐるコナンです。

第一話～悪夢～

その言葉はいきなりだった。

「なくなつたわ」

「え？ なんだつて？」

「組織はなくなつたわ」

こんな早くに捕まるなんて夢にも思わなかつたぜ！ 少し、高鳴る鼓動を抑えながら俺は灰原に訊いた。

「じゃあ、解毒剤のデータは？」

「残念だけど……」

組織が、なくなつただけに嬉しいのによ！ 灰原の口から最悪な言葉が出やがった。

「どういう事だよ！ ！ なあ！ ！ なくなつたんだろ？」 アジトに行つて探せば手に入るんじやねえのかー？」

いつの間にか俺は灰原に怒鳴つていた。いや、正確には怒鳴る以外頭に思いつかなかつたんだ。

「だから、組織がなくなる前に彼らが使つてたアジト、そつ工場は爆発したの。跡形もなく消し飛んだそうよ。其処にあつた解毒剤のデータもね。わかつたことは麻薬取引や密輸だけ……薬品のことは

なにもわからず闇に葬られたのよ

んなバカな！！俺たちが今までやつてたこと全部水の泡じゃねえか

!!

「なあ、一つ教えてくれ

「何？」

「もし、このままの姿でいなきゃいけないとして、俺たちは“生き
て” いけるのか？」

こんなこと訊くなんて思つてもみなかつたぜ。今まで元に戻るつて
信じていたからだな。

「さあね。私たちはこの世界の異物。いつかこの身体に何か起ころ
かもしない。パイカルみたいな酒や食べ物で元に戻るかもしれない
い、下手したら突然死ぬかもしれない……それが一年後か十年後か
はわからない。このまま何も起こらないかもしない。それは今
私も貴方にも分からない事」

俺は灰原の言葉を聞き終えると力なく座り込んだ。

第一話～悪夢～（後書き）

明けましておめでと「ひ」やります

新連載で御座います。

評価感想よろしくお願ひします。

第一話～田覚め～（前書き）

注意…コナンが弱気になっています。

第一話～田覚め～

「わー——————はあはあ……はあ……元に……戻れない
？」

俺は布団の上でビックショリと汗をかき、おっちゃんの部屋を抜け出し事務所へと向かつてた。

(戻れない？ 近い未来……ハハまさかな。んなわけねえよな?)

何びびつてんだよ俺!! んなことありえねえだろ!!

「はい、服部やけど? 誰や?」

「え?」

俺はいつの間にか服部の携帯に電話をかけてやがった。

「工藤か? どうしたんや? こんな時間に」

「あ、悪い。寝ぼけて間違えた。父さんとにかくかけるつもりだったんだ」

「は? 国際電話なら偉いちがうで?」

「だから悪いってー んじやあな

何やつてんだ俺、あいつに話してどうなるんだよ！－。あいつだけが“本当”の俺を素通りせずに見つけてくれた。ただそれだけじゃねえか。俺はあいつに何を求めてんだ？　俺の悩みをあいつに話して心配させるよつなら、今のままがいい……。

（登校時間）

「コナン君ビデオしたの？　フリフリしてるよ。大丈夫？」

「え？」

俺そんなにフリフリしてるよつて見えるか？

「ゲームのし過ぎですか？」

「夜な夜な、なんか食つてんじよねえのか？」

「それは無いですよ元太君！」

「いや。なんもねえよ」

「ならないですけど」

「何かあつたら言つてねー！」

「やうだぞー！」

「貴方どうかしたの？」

「いや、ただの寝不足だよ」

ハハハ——最近夢見悪いんだよ。心配してくれるのは嬉しいけど、
わりいけどオメーらに言えねえ話なんだよ。

第一話～田代ぬ～（後書き）

読んでいただきありがとうございますーー！

電話越しで平次でてきました。（パチパチパチ）

やして……「ナンの性格が違つて思われる方ホントにすみません

でもちやんと元に戻ります。といつよつ戻します。

なので見放さず読んでいただければ嬉しい限りです。

ではありがとうございました。

次回平次参上ーー！

第三話～服装のコナン～

「ただいまーってなんでお前がいんだよー!! 服部ー！」

「よお、久しぶりなコナン君ー！」

「……」

「ようつてなんでいんだよ。なにがしたくて遙々大阪からくるんだよー!! バカじやねえのー!!

「蘭ねえちゃん」

「何？ コナン君ー！」

「ちよつと平次兄ちゃんと散歩行つてくれるな」

「え？ あ、うん。夕食までに帰つてくれるのよー！」

「うん。わかった。」

俺は服部を引っ張り探偵事務所を飛び出してた。

「おいー! まてやー！」

俺を止めようとする服部に手を降りきられちまた。そりや そうだよな……今の俺じゃ力ずくでコイツを引っ張ることできねえよー!! いつもならーーどうだろ? また俺何かしてるよー!! 帰つてもらいたかったのに……なんでワザワザコイツまでつれてきんだよー!! わけわかんねえよー!!

「なあ？　お前何かへんやぞ？」

流石名探偵だぜ。異常に気付くもんなんだな。俺は止まっていた足を急に走らせた。ここからどうしても逃げたかったんだ。コイツといたくなかったんだ…！

「コイツを見てたら感情が流れそうだった。

「待てや！　工藤！」

予想はしてたけど、追いかけて来やがった。公園に入った途端、俺の腕を掴んだ。振り払おうとしたけど、余計に腕に力を込めできやがった。オマケに小雨程度の雨まで降つてやがる。

「逃げんなや！」

「逃げてるわけじゃねえよ」

俺は嘘つきだ……本当は逃げてる。逃げんなっていった俺が人に言える立場じゃねえな。ほんとは一番俺が逃げたかったんだ…！

「思いつきり逃げてるやん。何があつたんや…！」

「お前には関係ない事だろ！　帰れよ…何しに来たんだよ…！」

あ……言つまつたよ。言つつもりなかつたのに、勢いつてこえーな

「関係なくないやろ？　お前と俺は親友やんけ！　ライバルやんけ！　一人で抱え込むなや！　それに、お前昨日電話してきたやん。」「あれは……あれはただーー」

「あれはお前からの無意識のひのひをしたんやねー。」

「でだよー。何でコイツには分かんだよ。

「ほれ？ 話してみいやー。」

「ハハ……限界だな。

「…………夢」

「はあ？ 夢やどー？」

そりゃ驚くよな。たかが夢なんだから

「せつ…………夢をみたんだ。悪夢をな。最近ずっと見ていた。組織が崩壊する夢解毒剤が手に入らなく一生コナンでいなきやいけねえ夢をみたんだ。」

俺は一気に言ひ切った。未だに俺の腕を掴んだままの服部。何が言いたいんだよ！ 何で離してくれねえんだよ！

「…………夢は夢やー。」

何だよそれ！ ！ 夢で終われば嬉しそよ。でも……正夢になつてもおかしかねえ夢だろー？ 何で俺コイツに話したんだよ。

「もうこいつもー。」

「待てやー藤ー。」

抜けてい手に力が入ってきやがつた……痛よ^{いてえ}
何でとめるんだよ。

第三話～服部と「ナン～（後書き）

読者様お疲れ様です

平次来ちゃいました東京に！

二人言い争い…………ですね。

平次頑張つて！

次回で一応終わりです。

おまけの一話も作ってみたのですが……イマイチなんです。投稿するかは考え中なのです。

あので“一応”をつけました
ありがとうございました

最終話～ありがとう～

「まてや工藤、まだ現実に起きてへん話しゃる。あのねえちゃんかて、毎日一生懸命研究してるんやから、工藤がしつかりしなあかんやろー？　あのねえちゃん支えてあげられる工藤がそんな弱きになつとつたらあかんやろー。」

「わかつてゐる。其へり。『守る、守る』言つてゐる俺が一番足ひとつなんだよ！」

「うだよー！俺が重荷何だつて一番わかつてるー！　俺さえ、いなけりや蘭は悲しんだりしねえし、灰原だつてこんな運命迫つてねえよー！」

「お前そんな事おもつとつたんか！？　え！？　お前おかしいぞ！
ちよお田覚まさんか！？！」

「うてえ！　んだよー！きなり殴りやがつて！　俺は衝撃を受け地面に叩きつけられちまた。下は雨でぬかるんでやがる。その上に転がつたんだ。俺は泥まみれになつて上半身だけ起こした。一瞬何があつたかわからねえ状態で俺は頬に手を当ててみた。少し腫れいやがる。いや、結構がつくかもしれねえ、大人が子供を殴つたならそれくらいの傷になよな。ハハ……情けねえ脣から血がながれてるぜ。なんか、頭スッキリしてきやがつた。なんなんだよあいつ、俺のカウンセラーか！？　あのバカ何か言あうとしてやがる。俺は服部を見ることができねえまま下をむいつけました。

「工藤に一つ言つといたる。夢はまだ起じつてへん！　未来はな、

夢で、きめるもんでも、人が決めるもんじゃない、自分がゆづくり決めていくもんや！」

久々にお前が的もな事言つてやがる。でも、感謝してるぜ。なあ……服部？ 時々は負けてもいいよな？ 時々、はめ外してもいいよな？ 僕にはちゃんとお前がいる！ ありがとううな服部。いいライバルでいい友達に巡りあえたよ。絶対言葉にしねえけど、そう思つてるよ！

「立てるか？ 悪なあ、思いっきり殴つてもたわ。お前が子供やとすっかり忘れてたわ」 ああ……その笑いだよ。僕はお前の笑いによつて支えられてんだぜ！？

「平氣だよ。こんなもん。まあ、かんなり痛かったけどよ……」

わざと悪餓鬼っぽくいつたら、コイツ何回も謝つてきやがる。スマン、スマンってそのまま、手を伸ばして来たから僕はその手を掴んでやつた。

「あ～あ、エヨシヨビシヨビシヨガ、泥々やな

「まつとむ

んだよ。泥々にしたのお前だろ！？ 僕は細い目をして服部を見てやつた。明日からはもつと明るくいかねえとな。あいつらも心配してたし。

「ありがとうな服部……」

小声で言つた言葉聞こえたのか、聞こえてねえのかわからねえけど

服部は一ツと笑って探偵事務所に足を向けた。

もう、心は揺れたり挫けたりしねえと思う。アイツらをぶつ潰して幸せを得るまで突き進んでやる。全力で立ち向かってやるよ！

～完～

2008年1月14日

最終話～ありがとうございました（後書き）

ありがとうございました。短い話しだがありがとうございました。

平次がコナンをガツンと一発！ 思いの入った拳をめいいつぱいふりおろしました。二人の絆ふかまつたのかな（苦笑）

うまくコナの性格が戻っているなら幸いです……。おまけは辞めました。この作品の雰囲気丸潰れそうなので……

今日からコナンテレビアニメ13年目突入。エンディングがかわります！

応援よろしくお願いします

さて、今日は成人式

二十歳の皆様おめでとうございます！ 大人への道頑張ってください！

今日はホントにありがとうございました

2008年1月14日

菜花

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4050d/>

悪夢の後～救いの手～

2010年10月10日02時26分発行